

英語科研究部会

I 研究テーマ

テーマ 「4技能を統合的に活用できる表現力の育成」
サブテーマ 帯活動の工夫を通して

II 研究テーマ設定の理由

甲府支部では昨年度までの8年間、「伝えることを意識した表現力の育成」をテーマに研究を行ってきた。昨年度は4技能をバランスよく身につけられるような研究の視点を持ち、このテーマでの最終年としていくことを確認した。中学校部会では、教科書のMulti Plus (Writing plus) の指導のあり方やMulti Plusに至るまでの各單元における日常実践を出し合い、共通理解を深めた。Multi Plusに向かう各單元の中で計画的なプロセスを踏むことが重要だと確認された。小学校部会でも、Hi Friends!を使った授業実践から、児童を引きつける教材とは何かなど、日々の実践に生かせる議論がなされた。

今年度は、上記テーマのもと、日常的に行っていくことができる帯活動に、特に焦点をあてて研究していくこととなった。帯活動とは授業の最初5分から10分程度で行う活動であるが、目標をもって継続して行っていくことで、表現力の土台を築くことができる。各学年、各時期に有効に働く帯活動を研究していくこととする。

III 研究の経過と内容

1 研究の進め方

- 生徒の発達段階を考えると学年ごとの研究とする。
- 小学校、中学校、どちらも部会に所属しているため、小中の情報交換の場も設定する。

東西南北の校区で分けたグループを作り、情報交換をする

2 研究の内容

- 各学年、各時期に有効に働く帯活動を研究する。
- 講演を夏季休業中に要請し、意識を深めて日常実践に生かしていく

○小中の繋がり：互いの研究を共有する一方、授業参観等の機会をできるだけ利用する。

校区ごとに情報交換し、授業に役立てる

3 授業研究

授 業 北東中学校 3 学年の実践

と き 10月2日（木） 14：30～

場 所 甲府市立北東中学校 3年教室

題 材 Speaking Plus 3 道案内

4 研究計画

	日付	会場	内 容 (小学校部会)	内 容 (中学校部会)
第1回	4/10 (木)	北東中	組織作り	
第2回	5/15 (木)	北東中	第49次春季全体集会	今年度の研究について
第3回	6/17 (火)	北東中	小学校部会研究	各学年研究
第4回	8/7 (木)	北東中	第49次夏季全体集会 講演会「4技能の統合的活用－Multi Plus の役割」	
第5回	8/20 (水)	北東中	小学校部会研究	各学年研究
第6回	9/4 (木)	北東中	小学校部会研究	各学年研究
第7回	10/2 (木)	北東中	授業研究会	
第8回	11/4 (火)	北東中	県教研還流報告	小中情報交換
第9回	1/27 (火)	北東中	研究のまとめ、来年度方向性検討	

IV 研究の反省と課題

小学校部会では、帯活動を「外国語活動の授業において継続的に取り入れることのできる学習活動」と捉え、研究を深めてきた。帯活動の実践報告を通して、各活動の効果についての情報を共有し合った。

1年部会では、帯活動の実践研究と Multi Plus の授業の持ち方について研究を行ってきた。帯活動では、同じ活動でも教師のねらいによって活動方法やゴールが異なってくるのがわかった。Multi Plus ではモデル文の重要性が改めて確認された。

2学年部会では、帯活動のねらいや帯活動と表現力の向上について討議がなされた。各実践報告から、帯活動を4つのねらいに分類し、ねらいを明確にしながら授業の中に仕組んでいくことの重要性を確認し合った。今後は、生徒の変容を見取っていく。

3学年部会でも、各自の帯活動について意見交換し合った。帯活動を生徒の実態に合わせて改良し実践することができ、継続して行っていくことで効果が上がることが分かった。公開授業では、単元にいきる帯活動が実証されていた。

一方、夏休みに講師を招聘し、4技能の統合的活動の意義・指導方法や効果的な帯活動の指導についてアドバイスを頂いた。4技能の統合については、活動の題材は生徒にとって意味のあるもの、活動をやった結果自然と英語能力が付いているものを選ぶべきであること、生徒が発信する内容は自己関与性のあるものであること、活動は

2 技能の統合からでいいので自然な流れで結びついていること、などの助言をいただいた。帯活動については、基本的な語彙や文を復習するための帯活動と文を創作するための帯活動を紹介していただいた。パフォーマンスできるレベルに生徒を鍛えていくことが重要であると確認された。

来年度も継続研究となる。各単元や各学期で、生徒にどのような力をつけたいかを明確にし、その力を高めるためにどのような活動が必要か、日常的にできることは何かを研究していく。そして、生徒達の変容を見取り、帯活動の効果を検証できるような研究とする。小中の情報交換も積極的に行っていく。